

第 15 回中東情勢/実務セミナー実施報告書

1. 事業名：「中東情勢/実務セミナー」
2. 場 所：ホテルモントレ半蔵門 瑠璃
3. 実施日：平成 30 年 6 月 8 日（金）14：00 ～ 16：00
4. 演題・講師：
「国際社会の地殻変動とサウジアラビア」
奥田紀宏氏（東京海上日動火災保険(株)顧問（前サウジアラビア駐箚特命全権大使））
5. プログラム：①開会挨拶
②講演・質疑応答（80 分）
③名刺交換会（30 分）

6. 講演骨子：

今回の中東情勢／実務セミナーは、2017 年 12 月にサウジアラビアより帰任された前サウジアラビア駐箚特命全権大使、現在は東京海上日動火災保険(株)顧問の奥田紀宏様にご講演いただいた。

演題は「国際社会の地殻変動とサウジアラビア」とし、サウジアラビア情勢を中心に、同国・中東諸国の外交軍事政策を国際秩序の大きな変動との関連で講演頂いた。講演の要旨は以下のとおり。

- *サウジアラビアは豊富な財政収入と独特の宗教的社会的伝統の故に、周辺諸国の動きに右顧左眊することなく基本的には独自の国家運営を行ってきた。しかし、現在では国際情勢の大きな変化に巻き込まれ、今後の生存を図るために国際社会との関係の新たな構築を真剣に考えざるを得ない状況に置かれている。
- *従来から、中東諸国と欧米を中心とする国際社会との関係は不安定だった。十字軍以来、イスラム教徒はキリスト教徒に対してコーランの正当性に基づく優越感と同時に、19 世紀以降帝国主義的に成功した欧米に対する劣等感も持つ。サイクス＝ピコ条約のような帝国主義政策の負の遺産もあり、冷戦中の NATO 勢力や地域勢力（サウジは穏健なアラブとして西側に協力）の努力にも拘らず、中東アラブ社会の地域統合は成功せず。1990 年代以降（フランシス・フクヤマの）「歴史の終わり」に象徴される西側世界の勝利宣言に反発するかのように、アルカーイダなどのテロやイスラム原理主義に基づく政治思想の発展も活発化している。
- *現在の国際社会の地殻変動をもたらしているものは、大きく 4 つ。①トランプ政権の西側との協調政策の放棄や同盟関係の軽視（TPP・NAFTA 離脱、G6+1 孤立、NATO 批判）により国際的秩序の中に空白地帯が出現していること、又、その空白地帯においてロシア・中国・トルコ・イラン等も加わって「陣取り合戦」が開始されたこと、②第 4 次産業革命がもたらす IT・人工知能の発展による社会の「平等化」と権力の「独裁化」（個人の発信力強化 vs 国の IT による国民監視・情報独占）が国際社会に与える影響、③欧米にお

ける反移民感情と排外主義の増大、④中東アフリカ地域における格差の「見える」化による、伝統的な部族の生活共同体（ゲマインシャフト）としての社会的機能の脆弱化。

- *サウジアラビアの変化は、サルマン国王・ムハンマド・ビン・サルマン（MbS）体制となったここ 2-3 年、目に見えて現れている。第一の変化は、保守的勢力の抑制と社会のオープン化（文化、娯楽、女性の運転解禁など）。これは、新たなビジネス機会・雇用機会の創出を狙うとともに、若者をテロから切り離すためにサウジ指導部として強い決意で取り組んでいる。第二の変化は、新たな経済財政政策（ヴィジョン 2030）の策定。これには様々な理由があるが、特にシェールガス開発の進展が国際エネルギー市場に与える戦略的影響など国際経済及びエネルギー情勢の大きな変化にサウジ指導部が強い問題意識を持ったことがその契機となっている。第三の変化は、若者の力の伸長（この 30 年で人口が 2 倍に増加したのみならず IT の発展により若者の情報発信力も増大）。第四の変化は、「国家としての自意識」の覚醒とソフトパワーの自覚。MbS 皇太子は従来のサウジの姿勢とは異なり、人権問題など「他国にどう見られているか」を意識するようになった。自国での音楽や映画館の解禁はその象徴。また同皇太子は今年の訪米時に政治家やビジネスマンだけでなく、文化芸術マスコミ関係の著名人とも会い自国のイメージアップ向上を図っている。第五の変化は、サウジとしてのナショナリズムの醸成。現在サウジ指導部は開祖ムハンマド以前の「ジャーヒリーヤ（無明の時代）」も初めて肯定する展示会「アラビアの道」の各国開催やスポーツ振興などを通し、ナショナリズムの醸成に努めている。第六の変化は、より積極的な軍事外交政策（対イラン強硬策など）。サウジは従来のいわゆる新西側の穏健な外交政策を取る国から自国の国益をより強く主張する軍事外交政策を取るようになった。
- *サウジアラビアから見える国際情勢：サウジアラビアは米国のブッシュ／オバマ両政権の中東政策に不快感や不信感を抱いてきたが、トランプ政権移行後は「蜜月」状態が形成されている。中東情勢は依然として混沌としているがサウジアラビアは外交環境がトランプ政権以前より格段に改善したと感じているだろう。
- *サウジアラビアの持つリスクとしては、ヴィジョン 2030 で目に見える成果が上がらない可能性、王族間の軋轢、保守的宗教勢力の扱い、自国内の治安情勢、軍事外交政策がある。

質疑応答

（質問①）MbS 皇太子は（汚職パーシや映画館解禁など）過激とも思われる内政を進めているようだが、国民の全般的な評価は悪くないのか？

（回答）例えば今後、彼の進めるヴィジョン 2030 がうまく行かず失業率も改善しないと、エジプトやチュニジアのようなデモや物理的攻撃が起きたりするか、と問われれば、サウジ人は王様には基本的に従順であり、それは考えにくい。MbS は若年層から大きな支持を得ており、上層部の王族内の不和や宗教界の反発は、父国王が抑えていると考えられる。

(質問②) サウジは世界中に「イスラム学院」を建設し、「原理主義」を蔓延させているのではないか？

(回答) 従来の動きは急には止まらないだろうが、女子教育に体育を導入するなど、教育を大きく変えようとしている。実際に学校でイスラム教をどう教えるか、現行のシーア派を敵視するような教育をどう変えていくかがカギだろう。

(質問③) サウジアラビアは、なぜここまでイランを嫌い、敵視するのか？

(回答) 第1に、地域におけるイランの影響力の拡大。特にイラクにおけるイランの影響力の大きさは隣国サウジとしては無視できない。第2に、宗教的正当性を独占したいサウジアラビアに、イランが神権政治国として「正面からチャレンジできる」ことへの根源的恐怖。「79年のイラン革命以前は、サウジアラビアは穏健なイスラム社会だった」と MbS が強調している所以。

< 成 果 >

講演後の会場アンケートの結果、参加者の皆様より高い評価を頂いた。

講演について、「サウジアラビアについて、多面的なお話を豊富な経験に基づきお話し頂き、非常に参考になった」「現在の流動化する世界情勢を踏まえた興味深い話であった」「一般の日本での報道では得られない内容でわかりやすかった」などの感想が寄せられた。

今後のセミナーのテーマ設定要望については、引続き、サウジアラビアをテーマにした講演、中東経済動向、などが挙げられた。今後のテーマ設定の参考としたい。

